

Lend a Hand
手を貸そう国際ロータリー第2750地区多摩東グループ
東京多摩グリーンロータリー・クラブ

Weekly Report



クラブ会長テーマ 手を貸そう! そして強く握ろう!

2004-3-24 第645回例会 NO. 14-34 2004-3-31 発行

◎司会

SAA委員会 小田 泰機

◎点鐘

会長 大松 誠二

◎ロータリーソング「日も風も星も」

ソングリーダー 菊池 敏

◎お客様紹介

会長 大松 誠二

・東京多摩RC

岡野 一馬 様

・東京東村山RC

野村 高章 様

◎会務報告

会長 大松 誠二

・多摩市喫煙マナーアップキャンペーンについて、多摩地区39市町村と各組織・団体と共催で、歩き煙草や吸殻のポイ捨てを止めようという運動を展開することになり、ロータリークラブでも協力することとなりました。多摩市の市民、事業者、行政によるキャンペーン活動です。4月から市内各駅前で行われますが社会奉仕委員長を主体にして、協力してゆきたいと思えます。

・会長・幹事会の報告について、青少年交換学生の受け入れクラブの要請については、東京調布むらさきRCが受け入れることとなりました。R財団寄付報告がありましたが、多摩東グループの中で、我がクラブはダントツのトップの成績でした。ご協力ありがとうございました。

・本日例会後事務局にて定例理事会を開催します。役員理事はお集まり下さい。

◎幹事報告

幹事 藤本 吉文



・多摩福祉協議会主催の福祉まつりへのバザー出品に、皆様からたくさんの品物を協力していただき、ありがとうございました。

・2月の出席率76.19%をガバナー事務所に報告しました。

・東京みなとRCより3月27日より事務局移転のお知らせがきました。

・多摩市社協のふくしだよりを回覧します。

・稲城RCより観桜会へのお誘いが来ていますので回覧します。

・オクトンより国際ロータリー100周年の記念品のカタログが来ましたので、回覧します。

・多摩東グループIMの報告書をメールBOXに入れておきました。

・親睦旅行の会費宜しくお願ひします。

◎次年度会務報告

次年度会長 菊池 敏

・この度、北村幸彦会員から一身上の都合により次年度役員(次次年度会長)を辞退する旨の申出がありました。これを受け3月17日、臨時被選理事会を開催し協議いたしました結果、辞退の理由止むなしと判断し、承認いたしました。拠って、今後、本件の取扱いは、当クラブ細則第1条第4節に従い補填作業を進めることとなりますが、今回の補填は次年度役員であり、かつ次次年度会長職の人事であることを踏まえ、指名委員会を設け、この答申を参考に慎重に人選を行なうことを決議いたしました。従いまして、次の会員に指名委員を委嘱することにいたしましたので、よろしくお願ひいたします。

遠藤 二郎会員、吉沢 洋景会員、杉田 誠会員
海野 栄一会員、津守 弘範会員、足立潤三郎会員
小坂 一郎会員、大松 誠二会員

※クラブ細則第1条第4節

役員エレクトまたは理事エレクトの地位に生じた欠員は残りの被選理事会メンバーによって補填すべきものとする。

【委員会報告】

◎出席報告

出席委員会 小林 正

・会員総数 43名

・出席義務者数 42名(出席免除者2名)

東京多摩グリーンロータリー・クラブ事務局

東京都多摩市落合1-43 京王プラザホテル多摩561号
TEL 042(372)6463 FAX 042(372)6491
E-mail tamagrc@cello.ocn.ne.jp

【例会場】京王プラザホテル多摩・たまつばき4階

【例会日】●毎週水曜日12:30 ●月の最終例会18:30

【会長】大松誠二 【幹事】藤本吉文

【クラブ会報委員長】赤尾恭雄 【副委員長】正房正孝

【委員】遠藤二郎・平野行廣・佐伯和廣・澄川昇・高木淳光・由井眞司・小田泰機

- ・出席者数 31名
- ・欠席者数 11名(事前MU2名)
- ・出席率 78.57%
- ・欠席者：阿部 華歌、藤原 正範、平野 行廣、北村 幸彦、小泉 博、正房 正孝、村上 久、菅井 信夫、澄川 昇、高村 弘、高野 範城
- ・補填MU：阿部 華歌 3/10 被選理事会
村上 久 3/12 東京多摩RC

3/3最終訂正出席率78.57%

3/10最終訂正出席率80.95%

◎ニコニコBOX 親睦活動委員会 内田 啓

東京東村山RC 野村 高章様
お世話になります。

大松 誠二 岡野様、シルクロードのロマンを是非聞かせて下さい。

藤本 吉文 岡野様、卓話楽しみにしています。
足立潤三郎 本日は卓話宜しく願います。いろいろと卓話変更ありがとうございました。

津守 弘範 岡野さん、卓話楽しみにしております。

菊池 敏 岡野様、卓話楽しみにしております。

伊澤ケイ子 岡野様、卓話楽しみです。

赤尾 恭雄 岡野さん、先日はありがとうございました。卓話を楽しみにしています。

赤尾 恭雄 「ロータリーの友」の投稿がご縁で、和歌山RCのチャーターメンバー、ロータリー歴54年の竹中様と交流ができました。

田島真由美 桜が旅行の時まで残りますように。

海野 榮一 乞田川の桜、咲き始めましたネ。

杉野志保子 寒かったり、暖かかったり、体調不良です。

小林 正 ついに花粉症が出てきました。クシュン！クシュン！

小林 和夫 世ノ中全テ「ハルウララ」ダッタラモメルコトナクパラダイスナノニネ。

本日の合計¥17,000 (累計¥683,561)

◎卓話 『シルクロードタクラマカン砂漠の旅』
東京多摩RC会員 岡野 一馬 様



・「シルクロード」いつまでも人々を魅了する響きがある

2001年初、市民団体「地球と話す会」の企画する「シルク

ロード950キロ、駱駝と共に1ヶ月の旅」隊員募集の新聞記事を読む。早速応募し、7ヶ月、定例会、勉強会、合宿などに参加。9月11日より1ヶ月間念願の旅を終える。

タクラマカン砂漠は中国の北西部、新疆ウイグル自治区(面積160万Km²、中国全体の1/6)のタリム盆地内に在る。砂漠の面積は33.7万Km²で新疆ウイグル自治区総面積の21%を占め、サハラ砂漠に次ぐ世界第2の広さであり「タクラマカン」とは「生きて再び戻れぬ」意味と言われている。西域南道は砂漠の南端沿いの道で、敦煌～チャリクリク～チェルチェン～ニヤ～ホータン～カシュガルを通り、かつて、玄奘三蔵法師やマルコポーロも歩いたシルクロードである。

《エピソードを交えた説明を受けながら約20分間、ビデオにより旅の様子を拝見しました》

・第2次西域南道探検隊について

◇企画：「地球と話す会」(当時、国立市 現在、杉並区) 一般社会人で構成する市民団体でシルクロードに関わる「社会人の探検旅行」を企画、実施しており、会員は全国130余を有する。

◇コース：中国新疆自治区西域南道

1992年、第1次西域南道探検隊が敦厚～チャリクリク間750kmを踏破した。第2次はチャリクリク～ホータン間950kmのうち、700キロメートルを駱駝と徒歩で1日約30km進む。途中2～3のオアシスを除き、人家はなく、野営である。

◇期間：2001年9月11日～10月10日

厳寒期、酷暑気を避け、気候の最も安定している秋に実施、気温30℃～40℃、湿度16%前後である。毎日担当隊員が気象状況を計測した。

◇隊の編成

日本隊 37名(男性27名 女性10名) 平均年齢54歳(26歳～70歳)

中国隊 26名。隊長1、医者1、コック4、駱駝使い3、公安1、TV班3、他13

車 両 トラック、ジープなど7台 食料、水、野営テントなどの運搬

他 駱駝20頭 山羊5頭(食用)

中国には漢族、ウイグル族、カザフ族などの人々がいる。砂漠で寝食を共にし様々の異なった文化、風俗、習慣に接し、相互の理解を深めたのは大きな収穫である。又、多民族国家の複雑な問題を抱えている中国の悩みも垣間見た。

◎点鐘

会長 大松 誠二
(例会担当：高木 淳光)

ポール・ハリスを我々の心に！ Part 38

ポールは、僅かでもお金がある間は、北西部地方で狩りや魚釣りに興じたが、サンフランシスコに着く前には無一文になり、何とかしなければならなくなった。M・H・ド・ヤングが社主の「クロニクル新聞」にいた大学の友人が記者の仕事を手助けしてくれたが、出来高払いが条件だった。つまり、記事を書かなければ収入にはならず、不景気な時代で競争は激烈だった。新米の同僚にルイズビル出身のハリー・C・プリアムがいたが、後には野球のナショナルリーグ会長になった人だった。

そのハリーとポールは意気投合し、旅費を稼ぎながらカリフォルニア州を旅行することになった。二人は、三日目にはもう、バッカ・バレーの果樹園で肉体労働をしていた。そこでお金を蓄えると、有名なカラベラスの大木群を後にしてトレイレス山脈を越える 300 マイル (480 キロ) の徒歩旅行に出掛け、当時は無名のヨセミテ渓谷を探訪した。フレシノに辿り着くと、干しぶどうの箱詰め作業をやり、そこからロサンゼルスに行ってロサンゼルス商科大学の先生になった。

カリフォルニアで9ヶ月を過ごしたポール達は、コロラド州デンバーに行き、オールド・フィフティーンズ・ストリート劇場の専属劇団で俳優になった。こんな多芸振りを発揮したハプニングで、ポールは予想以上に有名になり、旧友達から手紙を貰ったが、皆、「ポールは道を誤った」と思ったようだった。

パイクスピークという山にも登ったが、子供の頃グリーンマウンテンで鍛え、シエラネバダ山脈で試してみた健脚がロッキー山脈でも通用したことでポールは自信を持った。そこでポールは、ロッキーマウンテン・ニュース社の記者になったが、暫くすると、今度はプラットビルという町のそばにある牧場でカウボーイ生活をやってみたくなった。この牧場では、迷子牛を探すために一人で何日も馬で走り回ったことが何度もあった。やがてポールはデンバーに戻り、リパブリカン新聞社に勤めた。奇遇なことに、ポールはここで東部に帰る途中のサンフランシスコ時代の記者仲間と出会った。

フロリダはロマンスの国の一つとして憧れていたが、運良く鉄道のパスが手に入ったのでジャクソンビルに行き、当時の最高級ツーリスト・ホテル、セントジェイムスの夜勤係になった。しかし、ホテルの仕事はつまらないので直ぐに辞めてしまい、ジョージ・W・クラーク商店の訪問販売員になった。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

ポール・ハリスを我々の心に！ Part 39

大理石や花崗岩を扱っていたジョージ・W・クラーク商店の仕事は、ポールにとって、バーモントのシェルド

ン大理石会社に勤めていた時の経験がいろいろ役に立った。ジョージ・クラークとは直ちに親友になり、彼はポールの一生に大きな影響を与えてくれた。後年、彼はジャクソンビル・ロータリー・クラブを創立し、初代会長に納まった。

1893年3月にはグローバー・クリーブランド大統領の就任式を見にワシントンに行き、ポールはワシントン・スター新聞社の臨時雇いになった。その後、ポールはルイズビルに行き、そこにいた友人ハリー・プリアムに頼んで出来ればクーリアー新聞社かコマーシャル新聞社に紹介して貰いたかったが、実現しなかった。そこでポールは、大理石や花崗岩を扱う別の店に就職し、ケンタッキー、テネシー、ジョージア、そしてバージニアの各州を巡回した。

バージニアのノーフォークまで行ったところでポールは店を辞め、船でフィラデルフィアに行った。イギリスの小説「ラグビー高校のトム・ブラウン」を読んですっかりのめり込んだポールは、ディケンズ、サッカレー、スコット等の作家の虜になってしまい、すっかりイギリスという国に憧れてしまった。イギリスに行きさえすればどんな苦労も厭わないと心に決めた。そんな時、フィラデルフィアの新聞で、イギリスに牛を輸出しているバルチモアの商店が牛の係員を募集する広告を見た。翌日の夜明け前には、波を蹴って洋上を走る一隻の船上に、現実の人生を勉強しようと意気軒昂なポールが乗っていた。しかし、海は荒れてひどい航海で、船内の困苦欠乏は凄まじく、食事も食べられたものではなかった。船員や牛の係員の中には、品性下劣で身持ちの悪い人達もいて、非常に貴重な経験だった。

ポールは同じ会社の別の船で帰国しなければならず、リバプールとその近郊しか見物できなかった。ロンドンを見ることができなかったことが残念だったが、もし、今後ロンドンを訪れる機会があれば、今回のような苦労をしても構わないと思った。帰りの海は行きほど荒れなかったが、ポール達係員には、ベッドのマットレスも毛布も食器さえもなく、主な食べ物といえば、偶に肉のかけらが引っ掛かるようなじゃが芋と水だけの雑炊や黴臭い堅パンだけだった。そのうえ、蚤や南京虫にも悩まされた。

(コーナー担当：赤尾 恭雄)

『ロータリー知識』 入門編
ロータリアンたるのなすべきこと
『出席』

ロータリーに欠席扱いはない。ロータリーに入会が認め

られた者に対して、ロータリアンという名誉ある地位を引受けた以上、あらゆるロータリーの会合に必ず出席すべき義務を負うことを告げなければならない。

会員選考委員会は

- (1) 会員候補者が企業の管理者であること
- (2) 当該事業所がその職種において指導的なものであること
- (3) その人柄が高潔であること
- (4) その信用状態の問題がないこと
- (5) 社交性をもっていること

について問題なきものとの結論に達したとき、その次に起こる重要な問題は、その会員に出席義務を果たすべき確固たる保障のない場合には、その職種の代表とならないほうがよいのである。ロータリー・クラブは、いわば電線の通った電線のようなものであって、電線というのは、電気が通ったり通らなかつたりするようでは役に立たないのである。常習欠席者罷免の原則は、企業上の決断のごとく断乎として行なわなければならない。出席率の高い会員こそロータリー・クラブの財産なのであり、そして退職や転職以外の理由で会員の入会・退会が常に行なわれていることは、明らかに欠陥であってこれがクラブを実効性のあがないものにしてしまうのである。

(ガイ・ガンディカー氏のロータリー通解より)

(コーナー担当 遠藤 二郎)

【ロータリーの変貌を嘆く】

2001年7月3日 新年度初例会後 記

和歌山ロータリー・クラブ 竹中 泰三 様

2001年7月3日 火曜日 我がクラブの新年度が始まった。

MANKAIND IS BUISIESS

のRI会長のメッセージを、「人類が 私達の仕事」と翻訳されているが、リチャード・D・キング会長の2001～2002年のRIテーマが、正しく日本のロータリアンに伝わるかどうか心配である。私自身も解らないが、英語そのままの方が理解しやすいのではなからうかと思う。

我が国のロータリーは、私が入会した当時とすべてが異なり、人の心より金銭的な物質的な奉仕を大切にするように、変貌してしまった。

お金を多く出す会員が、立派なロータリアンであると、錯覚を起こさせるようなクラブになってしまったのは事実である。

クラブの運営も、昔と比較にならぬほど、贅沢になり、質素なロータリーらしさがなくなってしまった。世の中が、すべて昔と異なると言ってしまえばそれまでだが、会員が地域社会の奉仕に、頭脳と手足を使う心の奉仕が皆無になったことは、ロータリーらしい奉仕が消えてしまったと言われても、仕方がないのではなからうか。

会員からの金集めが、ロータリーの役員の仕事であるような、錯覚を起こさせるような例会であるが、そのような運営に、会員の誰もが文句を言ったり注意をしないのも不思議であるが、これも時代の流れだろうか。

ロータリーでは、職業として、本業にしている特定の政治家や宗教家を会員に勧めることは好ましくないこととされているが、2640地区の本年度のガバナーは、職業は立派な宗教家であり、過去にもこのような例が二、三あったが、これも昔のロータリアンの心配事の一つである。

人物的に、ロータリーの基本的ルールを破壊する人物ではないと、日本人には理解できても、欧米諸国のロータリーの先輩国の人達には許せない事柄ではなからうか。

ロータリーは国際的なクラブである以上、国際的な常識を基本として運営されるべきだと思うが、近年の日本の指導者方は、全くそれらを気になさらないのが不思議である。

1950年12月、和歌山ロータリー・クラブが再発足してから51年間、ロータリーと共に歩いてきたが、私のロータリー歴、前半と後半とは大変な相異を感じるのは、決して私だけではない。

若くして会員にしてもらった私を、我が息子のように指導し可愛がって下さった諸先輩の方のロータリアンは、殆ど他界されてしまった。寂しいかぎりである。

我がクラブの育ての親である神戸ロータリー・クラブの小菅金三先輩、直木太郎先輩を想うたびに、現在の変貌したロータリーは退会すべきだと考えていたが、ロータリーの親友、堤君や韓国のC. K. OH君は、退会すべきではないと言ってくれる。

84才になり、眼や耳の不自由を我慢して毎例会には出席しているが、健康的には昔の自分と異なっている点を情けなく思う毎日である。

62年前から、親父の残してくれた育英事業「財団法人竹中源養会」の理事長として頑張っているが、唯一のロータリーらしい奉仕事業だと思っている。

堤 啓治君が、「真のロータリアンは会員の私生活にある」と言ってくれたことは、退会を決意していた私にとっては、大変な慰めになった。有り難いことだと思う。

堤君、有難う。

※竹中泰三様のプロフィール

1950年、32才で和歌山ロータリー・クラブ入会

ロータリー歴54年 87才

財団法人「竹中源養会」理事長

(印象に残る奉仕活動)

- ・和歌山女子刑務所の携帯児に対する奉仕と仮出所した女囚の個人的雇用(お手伝いとして)
- ・過去、800人を超える学生等に対する育英事業

等々

(コーナー担当：赤尾 恭雄)